

令和4年 5月18日

報道機関 各位

株式会社ペルセウスプロテオミクスとの スーパー中和抗体についての共同研究に関する覚書締結のお知らせ

■ ポイント

1. 富山大学は、株式会社ペルセウスプロテオミクス（以下「ペルセウス社」、本社：東京都目黒区、代表取締役社長：横川拓哉）および富山県（担当部門：衛生研究所ウイルス部および「くすりのシリコンバレーTOYAMA」創造コンソーシアム運営事務局）と、新型コロナウイルス感染症（以下「COVID-19」）の治療薬「スーパー中和抗体（開発コード：UT28K）」についての共同研究に関する覚書を締結しました。
2. 富山大学は今後、ペルセウス社および富山県と共同でスーパー中和抗体 UT28K の実用化に向けた開発を推進します。

■ 共同研究に関する覚書締結について

COVID-19 は様々な変異株が出現して主感染株が刻々と置き換わっており、日本国内の死者は累計で3万人を超えています。ワクチンには高い予防効果がありますが、その有効性は変異株の種類やワクチン投与後期間に依存します。経口治療薬も開発されていますが、未知の変異株に対する効果は不明であり、動物実験では催奇形性の報告があるため、妊婦等に用いることは出来ません。従って、今後の更なる変異株出現に備えて、変異に依存せず、安全かつ確実に治療可能な（国産の）治療薬の開発が必要です。

こうした中、2022年5月12日に発表しましたとおり^{※1}、富山大学先端抗体医薬開発センター、同大学和漢医薬学総合研究所、富山県衛生研究所ウイルス部、京都大学医生物学研究所、北海道大学薬学研究院の共同研究グループは、富山大学が昨年取得し「スーパー中和抗体」と命名したヒト型・モノクローナル中和抗体 UT28K が、新型コロナウイルス(SARS-CoV-2)の既存の変異株だけでなく、今後出現すると考えられる新たな変異株の感染も防ぐ治療薬となり得ることを、実験的に確認しました。

富山大学は UT28K の一刻も早い実用化のため、ペルセウス社を事業パートナーとして共に実用化を推進すべく、このたびの契約の締結に至りました。

■今後の展開

富山大学は今後、ペルセウス社および富山県と共同でスーパー中和抗体 UT28K の開発を推進します。そして、政府助成金等の獲得状況に応じて、実用化に向けた開発を進める計画です。また、ワクチンの投与が遅れているアジア各国への提供による国際的な医療貢献を目指すとともに、将来的なパンデミック発生時に国産中和抗体治療薬を安定的に提供するため、UT28K の製造・備蓄体制の整備に向けた事業化の推進に努めます。

※¹ [富山大学の UT28K に関するリリース \(令和 4 年 5 月 12 日リリース\)](https://www.u-toyama.ac.jp/wp/wp-content/uploads/20220512.pdf)

ヒト・スーパー中和抗体 UT28K はオミクロン株を含む新型コロナウイルスの多種の変異株感染を防御できる治療薬となり得ることを確認

<https://www.u-toyama.ac.jp/wp/wp-content/uploads/20220512.pdf>

【用語解説】

- ・ **中和抗体**：ウイルスに結合し、ウイルスのヒト細胞への感染を防ぐ能力をもつ抗体
- ・ **モノクローナル抗体**：単一の抗体産生細胞が作り出す、ただ 1 種類の抗体。抗原にある沢山の目印（抗原決定基）の中から 1 種類の目印とだけ結合する抗体である。
- ・ **SARS-CoV-2**：国際ウイルス分類委員会（International Committee on Taxonomy of Viruses：ICTV）による新型コロナウイルスの正式名称。SARS（重症急性呼吸器症候群）を引き起こすウイルス（SARS-CoV）に似たウイルス種であるとして「SARS-CoV-2」と名付けています。

【その他関連情報】

- ・ 株式会社ペルセウスプロテオミクス
<https://www.ppmx.com/news/>
- ・ 「くすりのシリコンバレーTOYAMA」創造コンソーシアム
<https://www.kusuri-consortium.jp/>

【本発表資料のお問い合わせ先】

富山大学学術研究部医学系 准教授 仁井見 英樹（にいみ ひでき）

TEL：076-434-7759（直通） Email：hiniimi@med.u-toyama.ac.jp